

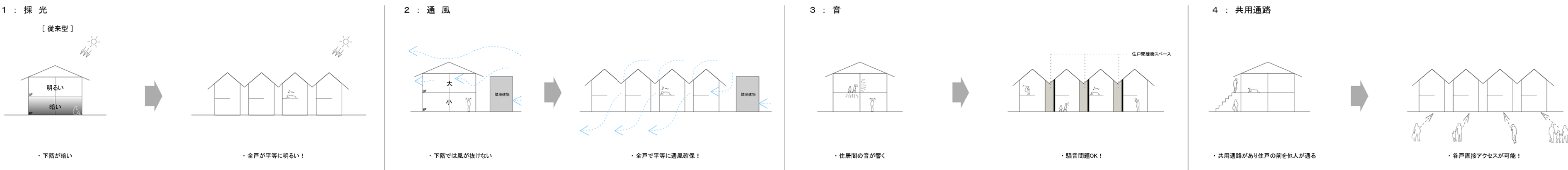


cocoon

社会に普及している集合住宅の4戸建てというほぼパターンが決まっており、そこには集合住宅特有の問題があるが、解決策を講じないまま現在も量産されている。そこでは周辺環境に耳を傾けることもなければ、住まいの多様性に配慮することもない。立地と最新の設備機器、資料が賃貸の価値となっている。

本計画は築数十年の住宅が密集した場所である。周辺のコンテキストから派生した連続する切妻屋根の下に4戸の集合住宅(長屋)が並列する構成となっている。街並みの中で建物間に離隔距離が確保されているように、本計画では住戸間に緩衝スペースを設けている。長屋形式と緩衝スペースによって集合住宅が抱える音や採光、通風に対して有効な解決策となっている。また近隣の風景を取り込み、街の余白が内部にまで連続するため賃貸住宅でありながら街を取り込みながら暮らすことを意図している。周辺風景から導かれた連続する屋根／長屋型住戸／インナーガーデン／屋根による空とつながる様・隣地とつながる谷／不均質な外観など集合住宅における住まいの質を高く出来ればと考えた。

口既存の集合住宅の問題点と本計画



口計画の要点

周辺環境 | 数十年を経た勾配屋根が連続する風景を築く。



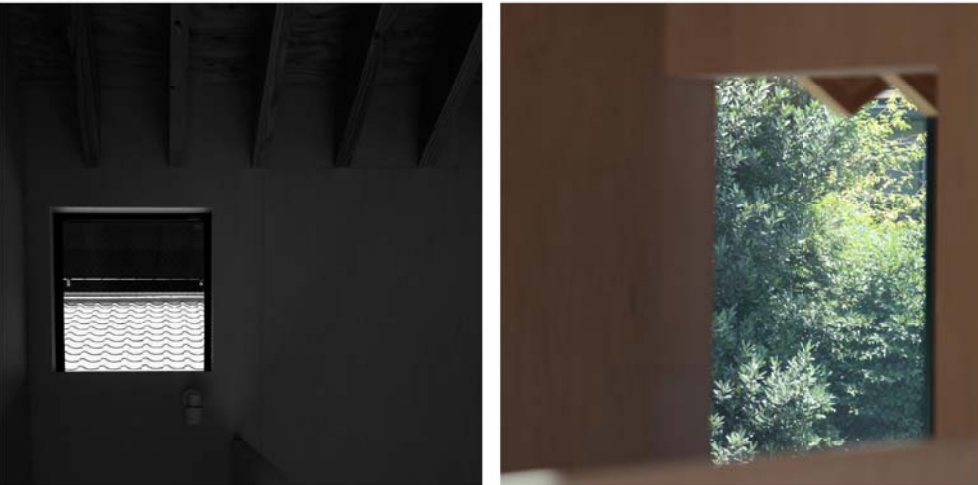
素材 | 旧来からの下見板張りを不均質に重ね光を縫うファサードとする



路地 | 住戸間は路地のような曖昧な空間で隔てられている。住まいは隣地の風景へとつながり拡張する。



周辺風景と開口 | 周辺環境が住まいの風景となる開口計画。



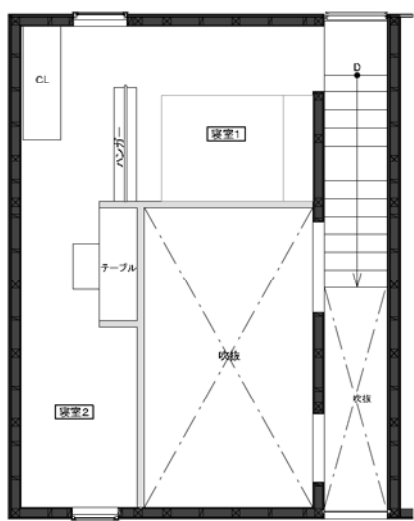
屋根の谷と棟 | 谷からは周辺風景を取り込み、棟からは空の風景を取り込む。



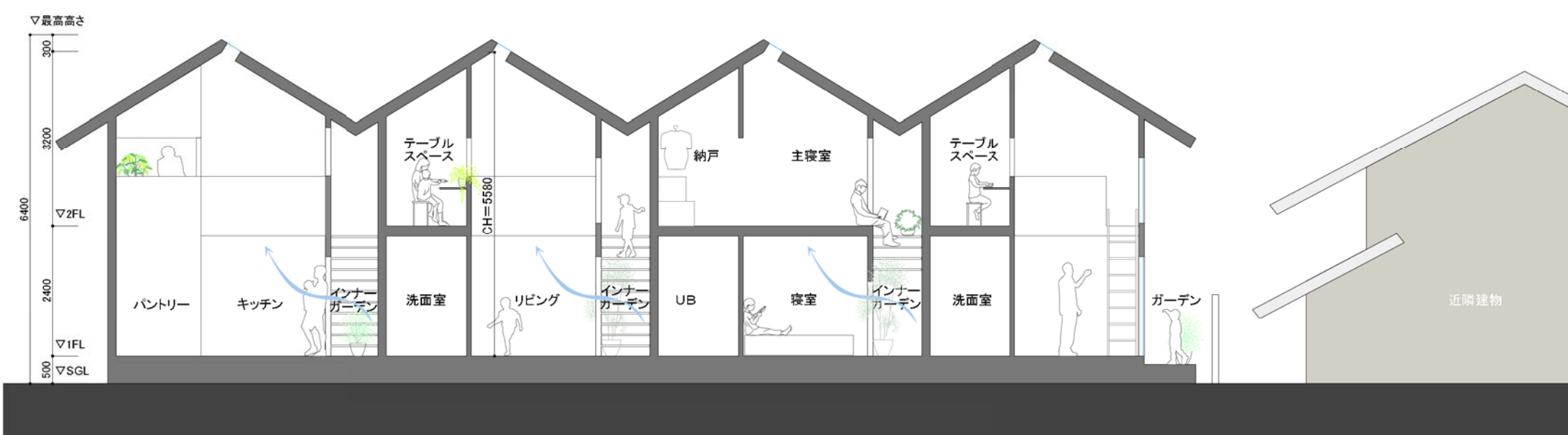
配置兼1階平面図 1:100



2階平面図 1:100



断面図 1:100



口内観



空の状況により時間と共に内部の風景が変わる。

気持のある内部空間は光の変化をダイナミックに反映する。

隣家との緩衝スペースは暮らしにあわせて多様な使い方が可能。

一住戸内で展開する外部的空間と内部的空間。

日中は自然光が夜間は星が見えるトップライト。